卒業論文

芸能人のファンが抱える苦悩に関する社会学的研究

2016 年度入学

九州大学　文学部　人文学科　人間科学コース

社会学・地域福祉社会学専門分野

2020 年 1 月　提出

要約

本研究では、芸能人のファン活動における苦悩をテーマに、芸能人のファンが抱える苦悩の実態を把握してその仕組みを分析したり、苦悩の中にいるファンを救う手がかりのようなものを提示したりすることを目的としている。そして、問題設定の背景として、3 点が挙げられる。第 1 に、芸能人のファン活動は、科学技術が発展した現代を生きる人々がもつ余暇時間に行われる娯楽として一般的であり、現代社会を読み解くピースになり得る。第 2 に、芸能人のファン活動は、生身の人間が繰り広げる種々のパフォーマンスを愛でる活動であり、対象が人であるがゆえに深く没入してしまうことがある。それゆえ、活動に没入するファンにとっては、ファン活動における苦悩が大きな問題となり得る。そして、第 3 に、芸能人のファン活動においては、対象である芸能人、その芸能人をプロデュースする立場の人々、自分以外の他のファンたち、その芸能人にまつわる社会の固定観念といった、多様な他者との関係によって苦悩を抱くことがある。これらの背景から、芸能人のファン活動における苦悩をテーマとしている。

先行研究では、人々が芸能人のファンになる経緯に関する知見や、ファン活動における苦悩に関する知見を確認した。後者については、ファン活動の「苦悩」を直接取り扱う先行研究は見つけられなかったため、ファンにとっての問題や悩みとなり得る論点に触れているものや、問題や悩みなどの負の側面に限らず、芸能人やそのファンに見られる特徴や社会的な動きについて論じているものをまとめた。

調査は、芸能人のファン 4 人を対象に、インタビューを行った。特に属性に制限を設けたわけではないが、全員、女性の大学生であった。本研究の目的を果たすため、まず、人々はどのような経緯でファン活動の渦へと足を踏み入れるのか、次に、ファン活動によってどのような苦悩に直面するのか、さらに、苦悩を受けてどのような行動をとるのかについてインタビューを行い、ファン活動における苦悩にはどのようなものが存在するのかという事実を把握したり、それに対してファンはどのような感情や考えを抱き、どのように対応しているのかを確認したりした。

調査をもとに、人々が芸能人のファンになる経緯については、「手段」、「状態」、「要素」という 3 つの観点から分析を行った。「手段」では、メディアと身近な人物の影響力が強

く、「状態」には、並行型、関連型、移行型、補充型の 4 つのケースが見られた。また、「要素」としては、流行や勢いと、新鮮味が機能していることが確認された。

ファン活動において人々が直面する苦悩については、他者との関係によって苦悩が生まれるという点に注目し、4 つの他者との関係を軸に苦悩を分類した。即ち、①好きな芸能人との関係によって生まれる苦悩、②芸能人とファンを繋ぐ立場の人々との関係によって生まれる苦悩、③自分以外の他のファンとの関係によって生まれる苦悩、④ファンではない世間一般の人々との関係によって生まれる苦悩である。第 1 の苦悩の特徴は、芸能人とそのファンが築いた特殊な関係が、芸能人側の事情によって壊されてしまうことであった。第 2 の苦悩には、芸能人とファンを繋ぐ立場にいる、プロデューサーや記者といった職の人々が、芸能人の商業的側面を重視していることが関係していた。また、このような人々が、時として権力をもち、芸能人とそのファンとの間にある繋がりを断絶させることも、苦悩の要因だと確認された。第 3 の苦悩の特徴は、同じファンであるがゆえに、他のファンの動向を意識したり、他のファンと自分を比較したりして苦しむということであった。そして、第 4 の苦悩では、ファンではない人々から、ひいきの芸能人やそのファンである自分がどのように見られているのかという目線を気にするファンの姿が浮かび上がった。

このような苦悩を受け、ファンたちは 4 つの行動をとることが確認された。即ち、①ファン活動をやめる、②他者との関わり方を変えてファン活動を続ける、③他者に働きかけてファン活動を続ける、④自分を変えてファン活動を続けるという行動である。第 1 の行動は、先述した第 1 の苦悩のように、ファン活動の根底を揺るがす衝撃の大きな苦悩と結びつきがあると考えられる。第 2 の行動は、自分と他者の価値観を共に尊重し、他者との接し方を工夫することで苦悩を回避するというものだ。第 3 の行動は、他者に非があると考えられるとき、他者に働きかけることで苦悩に対処するというものであり、自分自身の立場は保持している。そして第 4 の行動は、自分自身を変えることで、苦悩を受け止めたり、乗り越えたりするものである。これは、苦悩と向き合う行動であり、芸能人や自分自身を見つめ直すことにも繋がるので、ファン活動をいっそう強化する。そして、この経験は将来のファン活動にも活かされると考えられる。

以上を踏まえ、本研究では、個々の苦悩に応じた対応を選択しながらも、第 4 の行動を意識し、前向きに苦悩と付き合っていくべきだと提言する。

目次

1　はじめに.....1
2　先行研究.....4
2.1　ファン活動のはじまりに関連する先行研究.....4
2.1.1　ファン動機に関する知見.....4
2.2　ファン活動における苦悩に関連する先行研究.....4
2.2.1　ファン対象を好きな理由に関する知見.....4
2.2.2　ファンどうしの結束が生む排他性.....6
2.2.3　アイドルについて語ることの難しさ.....7
2.2.4　アイドルに仲の良さを求めるファンの姿.....8
2.2.5　ファンどうしの影響関係を意識した消費行為.....9
2.2.6　ファンとしての責任.....10
2.2.7　ファンクラブ活動がもつ求心力.....10
2.2.8　古参ファンと新参ファン.....11
2.2.9　アイドルファンによる友人関係の形成過程やその構造の特徴.....12
2.2.10　スキャンダル時のファン心理に関する知見.....13
3　研究概要.....15
3.1　調査目的.....15
3.2　調査対象.....15
3.3　調査方法.....15
3.4　調査期間.....15
3.5　分析の焦点.....16
4　分析・考察.....17
4.1　調査対象者のプロフィール.....17
4.2　ファン活動のはじまり.....17
4.2.1　手段 1――メディア.....18
4.2.2　手段 2――身近な人物.....19
4.2.3　状態――並行、関連、移行、補充.....20
4.2.4　要素 1――流行や勢い.....22
4.2.5　要素 2――新鮮味.....24

4.3　ファン活動における苦悩 25
4.3.1　苦悩 1――好きな芸能人との関係から 25
4.3.1.1　引退がもたらす衝撃 25
4.3.1.2　アイドルを貫くことへの希求 28
4.3.1.3　芸能人が所属する社会の文化が与える影響 30
4.3.2　苦悩 2――芸能人と一般人を繋ぐ立場の人々との関係から 32
4.3.2.1　路線変更に対する不満や不安 33
4.3.2.2　インターネットニュースがもつ 2 つの特徴が引き起こす苦しみ 36
4.3.3　苦悩 3――自分以外の他のファンとの関係から 39
4.3.3.1　ファンと名乗っていいのかという悩み 39
4.3.3.2　ファンどうしの対立 41
4.3.3.3　他のファンを意識したファン活動 45
4.3.3.4　Twitter 上でのファンによる発信がもつ影響力 47
4.3.3.5　大きすぎない存在への希求 50
4.3.4　苦悩 4――ファンではない世間一般の人々との関係から 52
4.3.4.1　ファンであることの告白に対する躊躇い 53
4.3.4.2　マイナーな趣味を良しとする風潮 56
4.3.4.3　アイドル音楽への軽視 57
4.4　苦悩に対するファンの行動 60
4.4.1　苦悩に対する行動 1――ファン活動をやめる 60
4.4.2　苦悩に対する行動 2――他者との関わり方を変えてファン活動を続ける 61
4.4.3　苦悩に対する行動 3――他者に働きかけてファン活動を続ける 63
4.4.4　苦悩に対する行動 4――自分を変えてファン活動を続ける 65
5　結論 71
文献 78
謝辞 79